



私の視点

siten@asahi.com

天まで届くような超高層ビル群に高級車の数々、美しく着飾った人たち。そんな北京の様子を見ていると、もはや途

上国とは感じない。中国に對する政府の

◆対中ODA

環境分野限定で継続を

し、脱硫装置がついていないボイラーも多く、大量のSO₂（二酸化硫黄）、NO_x（窒素酸化物）が排出され、大気汚染の一因となっている。

北京市の発表では、1年のうち100日以上も「汚染状態」という。今年2月、中国の環境問題の実情

量、1755tのSO₂、1229tのNO_x、2103tの煤塵排出量を削減できるとされる。実はこのプラントの建設費の8割が円借款で賄われている。円借款とは、開発途上国への経済協力の一環として、日本政府が2国間合意に基づいて超長期、超低利の融資

しかし04年、当時の小泉首相が、ラオスでの温家宝・中国首相との首脳会談前、「もう卒業の時期を迎えている」と打ち切りを示唆したこと端を発し、日本政府は08年をもって、中国への新規円借款供与を終了させるとしている。確かに、中国国内の環境

部からの技術、経験、そして資金が必要になる。なにより公害は国境を越える。汚染された空気も水も、簡単に日本海を越える。中国の環境問題の「影響力」「破壊力」は、わが国で、クールビズを提唱したり、暖房の設定温度を1度下げたり、エコバッグを持参したりするような努力が、簡単に吹き飛んでしまふほどだ。

途上国援助（ODA）不要論が、わが国で出ているのも分かる気がする。

を調査するため北京を訪れた日も、光化学スモッグが発生し、街を歩けばせき込んでしまうほどだった。

中国の深刻な環境問題に對して、日本は円借款という手法で協力し、製鉄工場に脱硫装置や集塵装置を設置したり、上下水道を整備したりしてきた。現在、中

問題であるから、中国政府や地方政府が責任を負うべきであるという指摘はそのとおりである。しかし、開発途上段階にある国では、経済成長を優先してしまう現実がある。それは、多数

の環境を考える上でも、中国の環境問題の解決は重要だ。環境分野に限定した円借款の継続、もしくはそれを代替する新たな支援策が必要である。

しかし、環境という視点からすれば、話は異なる。

現在、同地区にはガスボイラーによるコージェネレーション（熱電併給）プラントが建設されている。完

成すれば、102基の小型石炭ボイラーを代替でき、60もあり、着実に成果を上げつつあるようだ。

現実がある。それは、多数の公害を生み出してきた日本の経験からしても明らかである。だとすれば、中国

の環境問題の解決には、外

だけでも、128基の小型石炭ボイラーが稼働している。地域の各家庭に湯を供給（セントラルヒーティング）するためである。しか

年間30万トンの石炭使用

国で進行している環境分野の円借款プロジェクトは約

の公害を生み出してきた日

アにも収録します。

給（セントラルヒーティング）する

年間30万トンの石炭使用

国で進行している環境分野の円借款プロジェクトは約

の公害を生み出してきた日

アにも収録します。

投稿は、〒104・8011朝日新聞オピニオン面「私の視点」かsiten@asahi.comへ。電子メディアにも収録します。